

---

# 2024年度(2025年3月期) 第3四半期決算補足資料

株式会社ダイヘン

2025.2.4

# 2024年度第3四半期業績

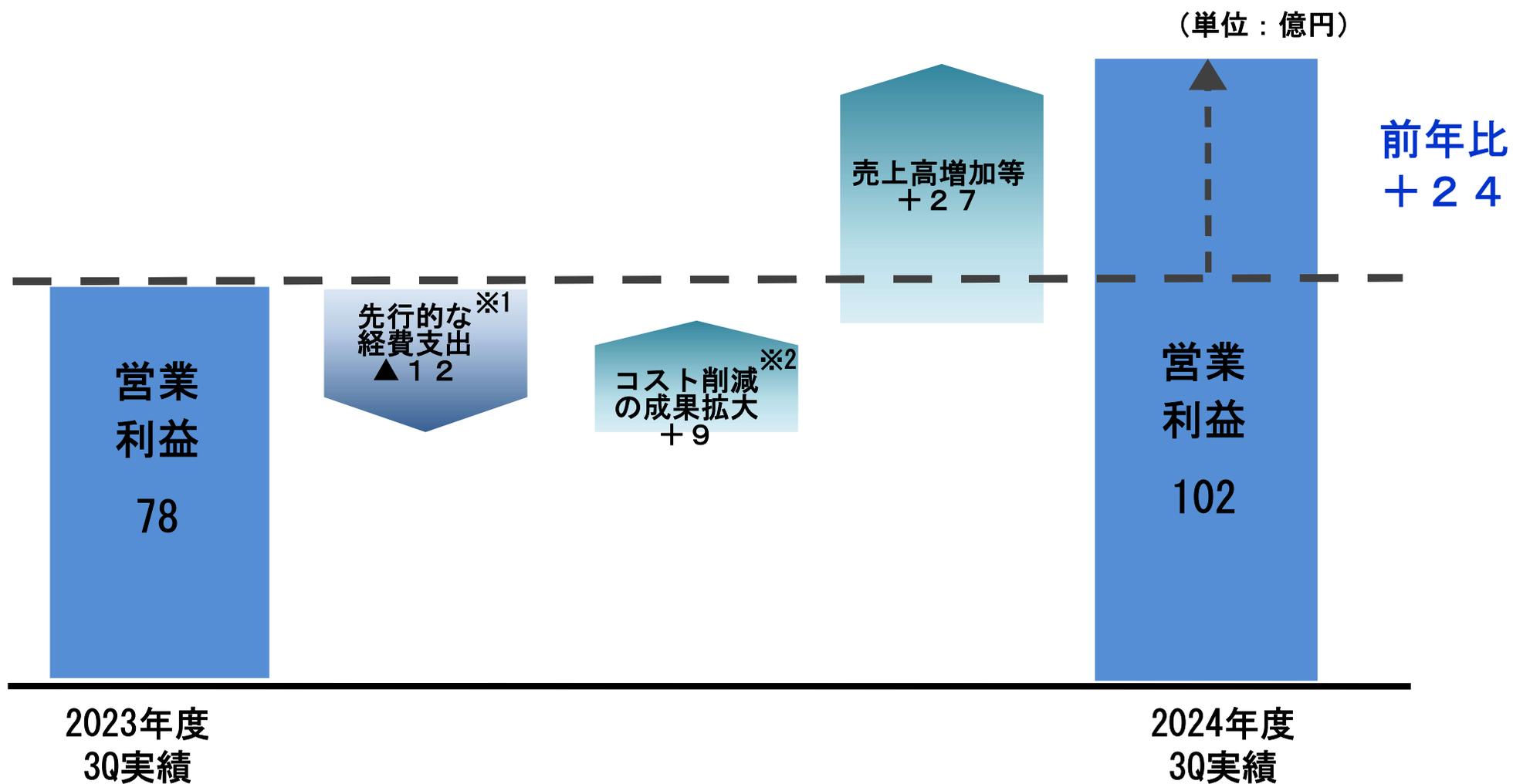
(単位：億円)

	2023年度 2Q実績 ①	2024年度 2Q実績 ②	前年同期 比較 ②/①
売上高	789	961	+21.7%
営業利益	6.4% 51	5.3% 51	-0.1%
経常利益	7.3% 57	6.0% 57	-0.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5.2% 41	4.4% 42	+3.1%

	2023年度 3Q実績 ③	2024年度 3Q実績 ④	前年同期 比較 ④/③
	1,272	1,558	+22.5%
	6.1% 78	6.6% 102	+31.2%
	6.7% 85	7.2% 112	+32.0%
	8.9% 112	4.9% 76	-32.1%

- ・ 当第3四半期での売上高増加により営業利益・経常利益は前年同期比増益に転じた
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は2023年度に負ののれん発生益等を計上した影響により減益

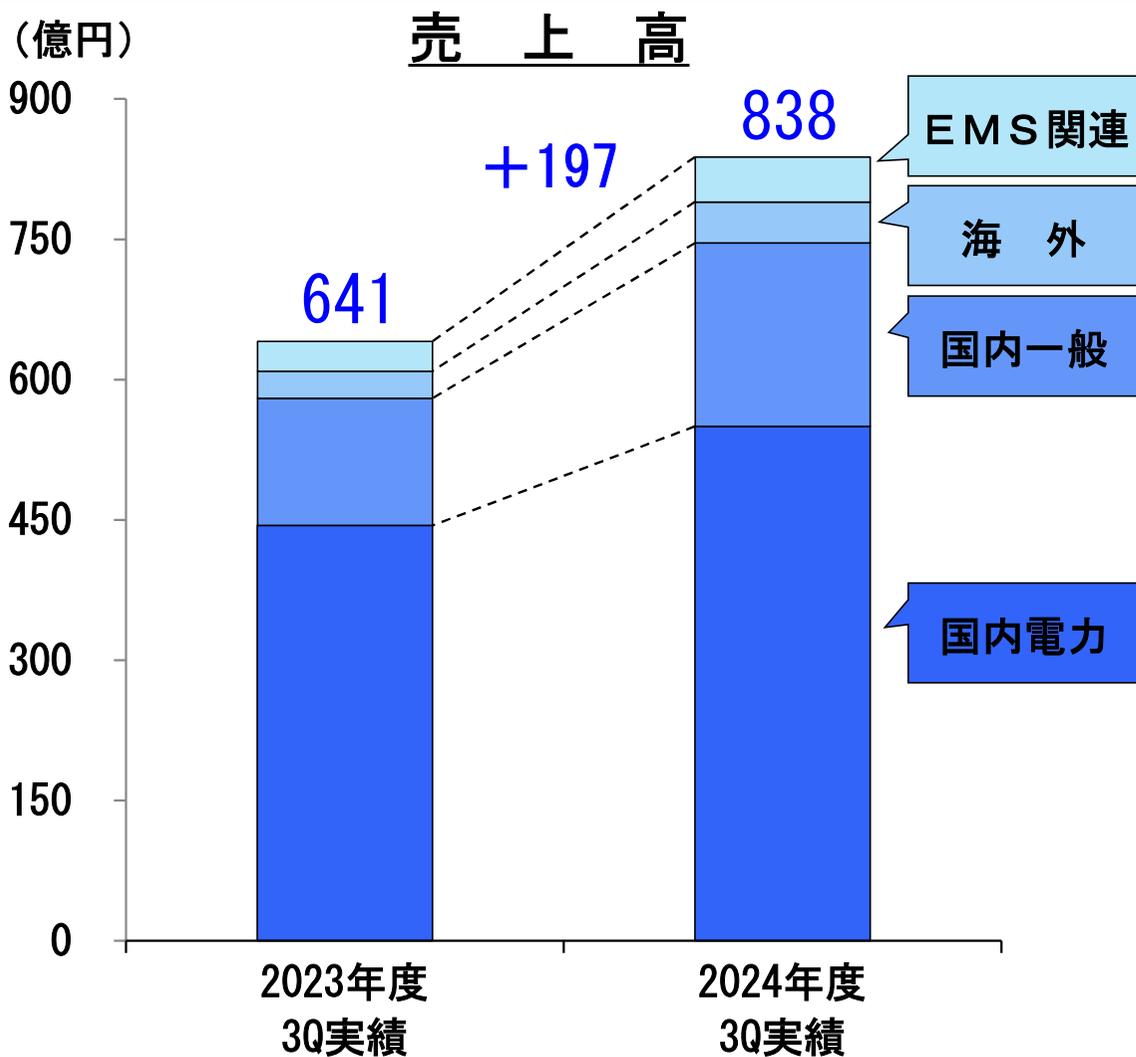
# 2024年度第3四半期 営業利益変動要因(前年同期比)



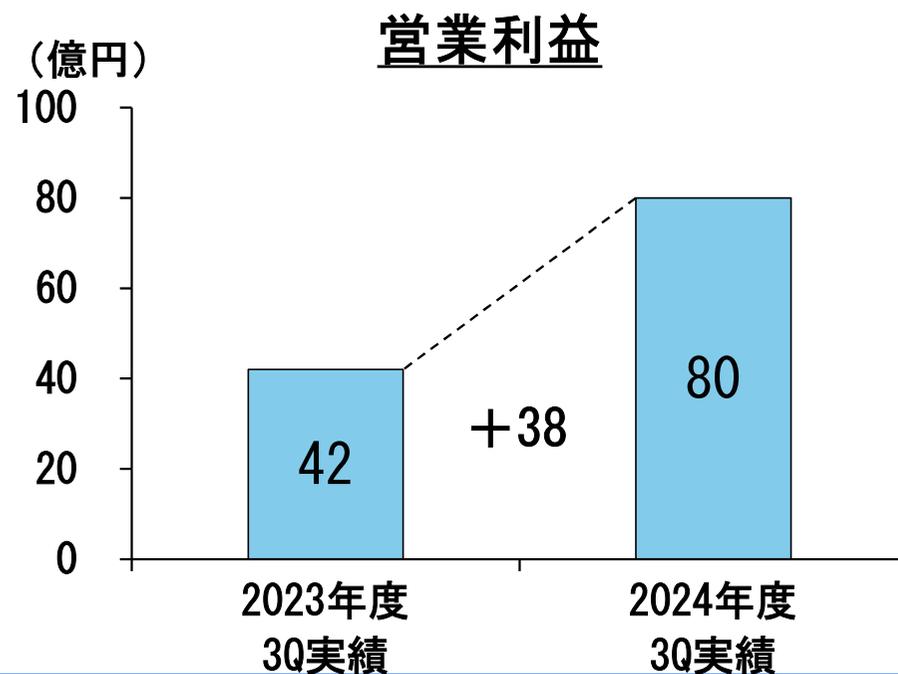
※1. 先行的な経費支出：開発費▲5、償却費▲4、広告宣伝他▲3

※2. コスト削減の成果：材料コストダウン +3、生産性向上+2、間接業務効率化 +4

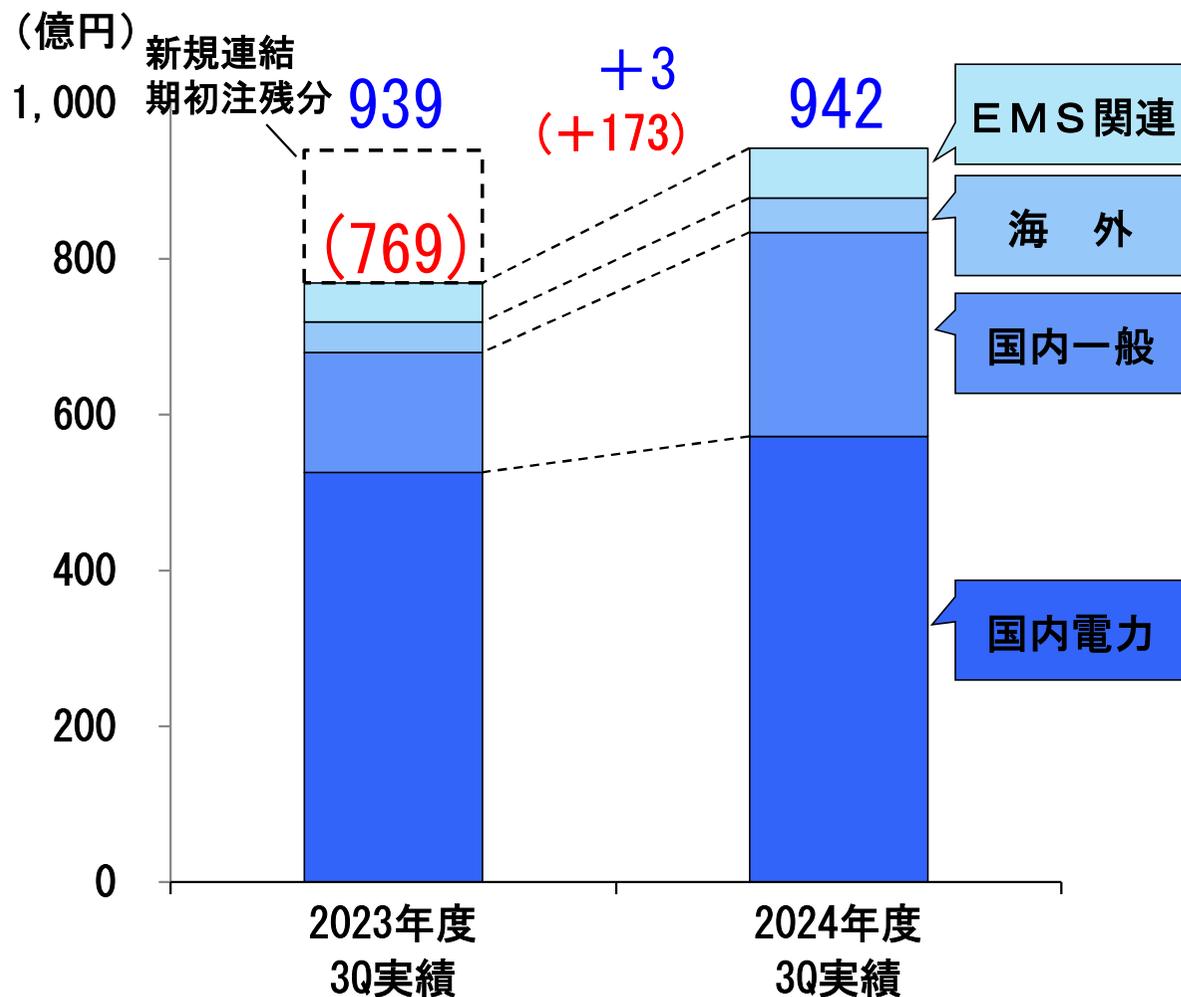
# 「エネルギーマネジメント」セグメント 売上高・営業利益



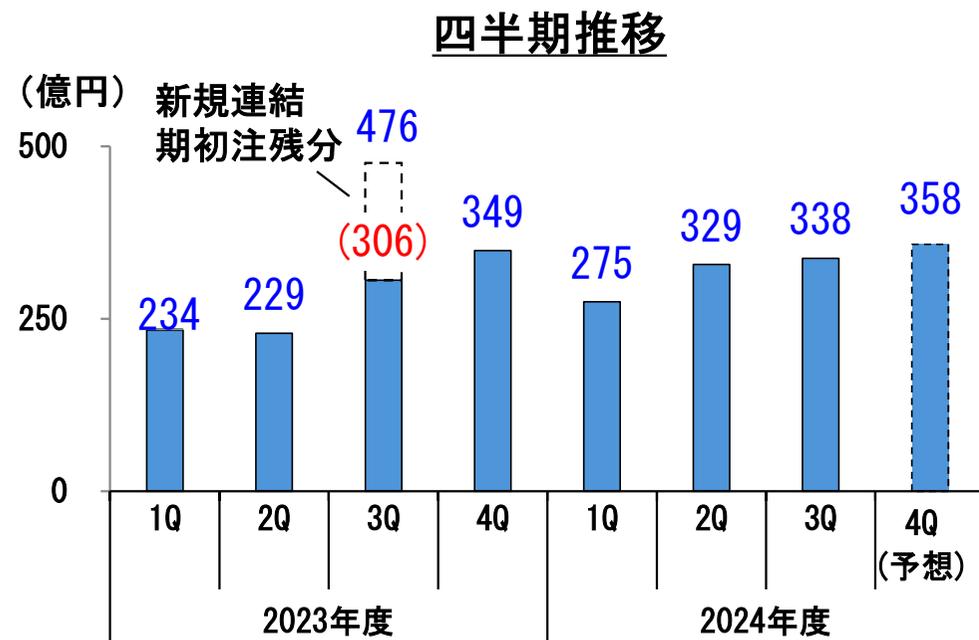
- ・ 配電機器や国内工場受電設備、蓄電池システムの増加に加え、新規連結影響（東北電機製造と四変テック）もあり増収・増益



# 「エネルギーマネジメント」セグメント 受注高

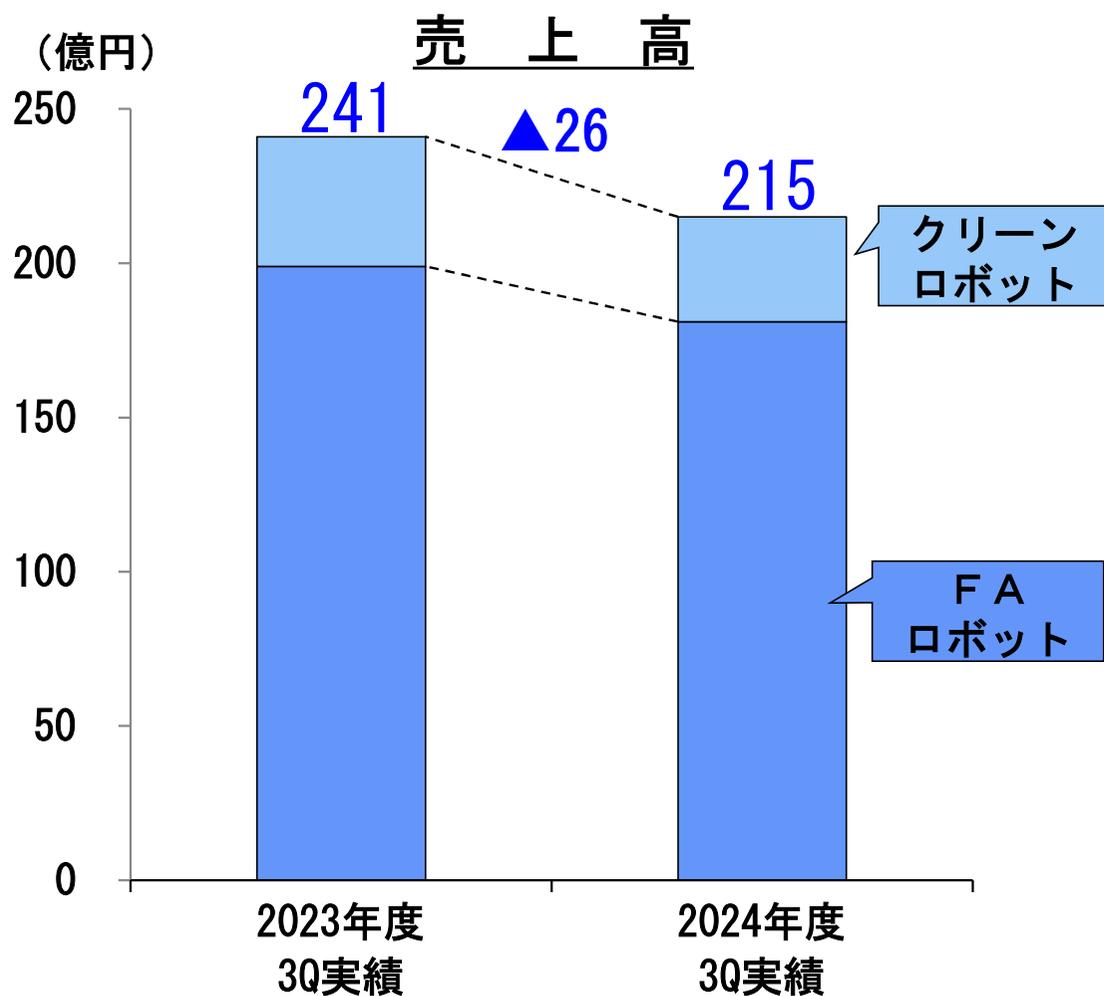


・ 前年度の新規連結に伴う  
 期初注残分の影響を除くと  
 受注高も大幅増加

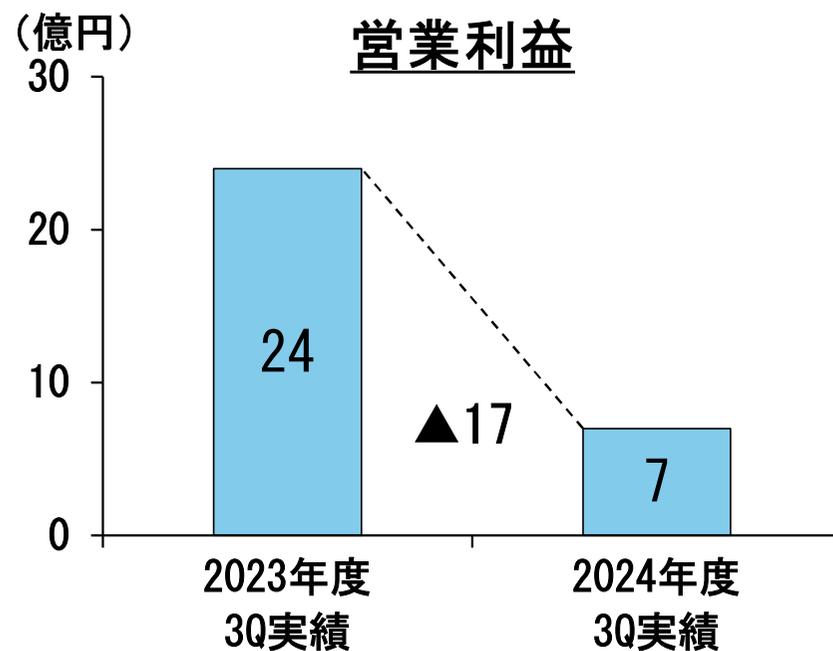


( )は新規連結期初注残分を除外した受注高の合計

# 「ファクトリーオートメーション」セグメント 売上高・営業利益

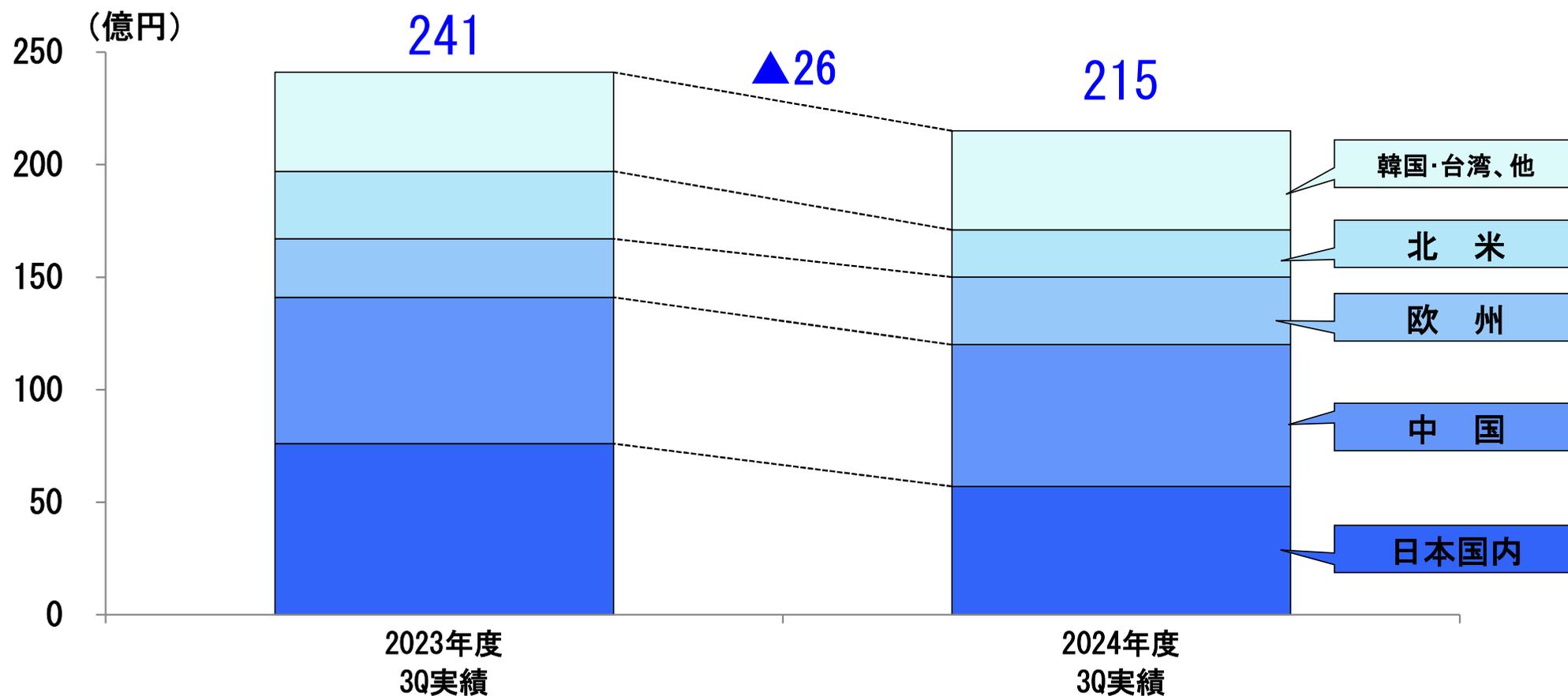


- ・国内外での自動車関連投資等の先送りにより減少
- ・事業拡大のための先行的な経費投入もあり減益



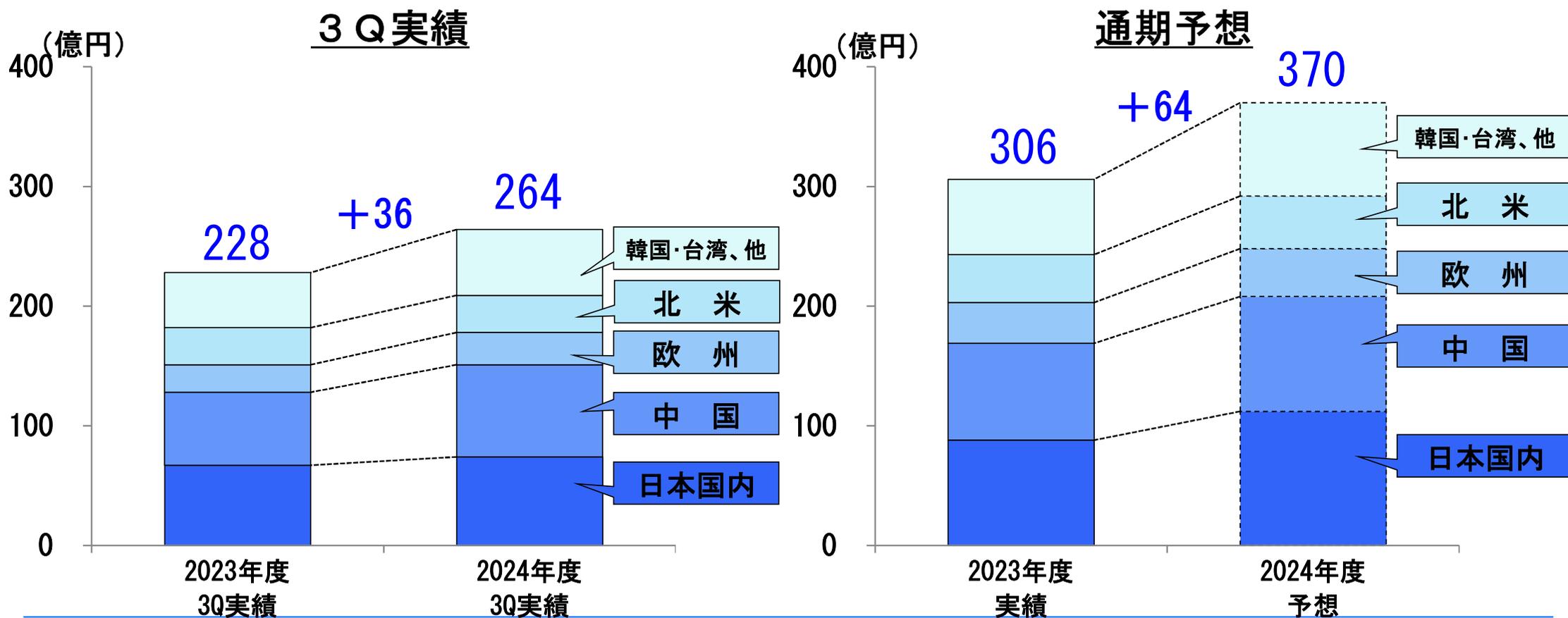
# 「ファクトリーオートメーション」地域別売上高

- ・ 欧州は経済停滞の影響を受けたがローヒ社の連結子会社化により増加

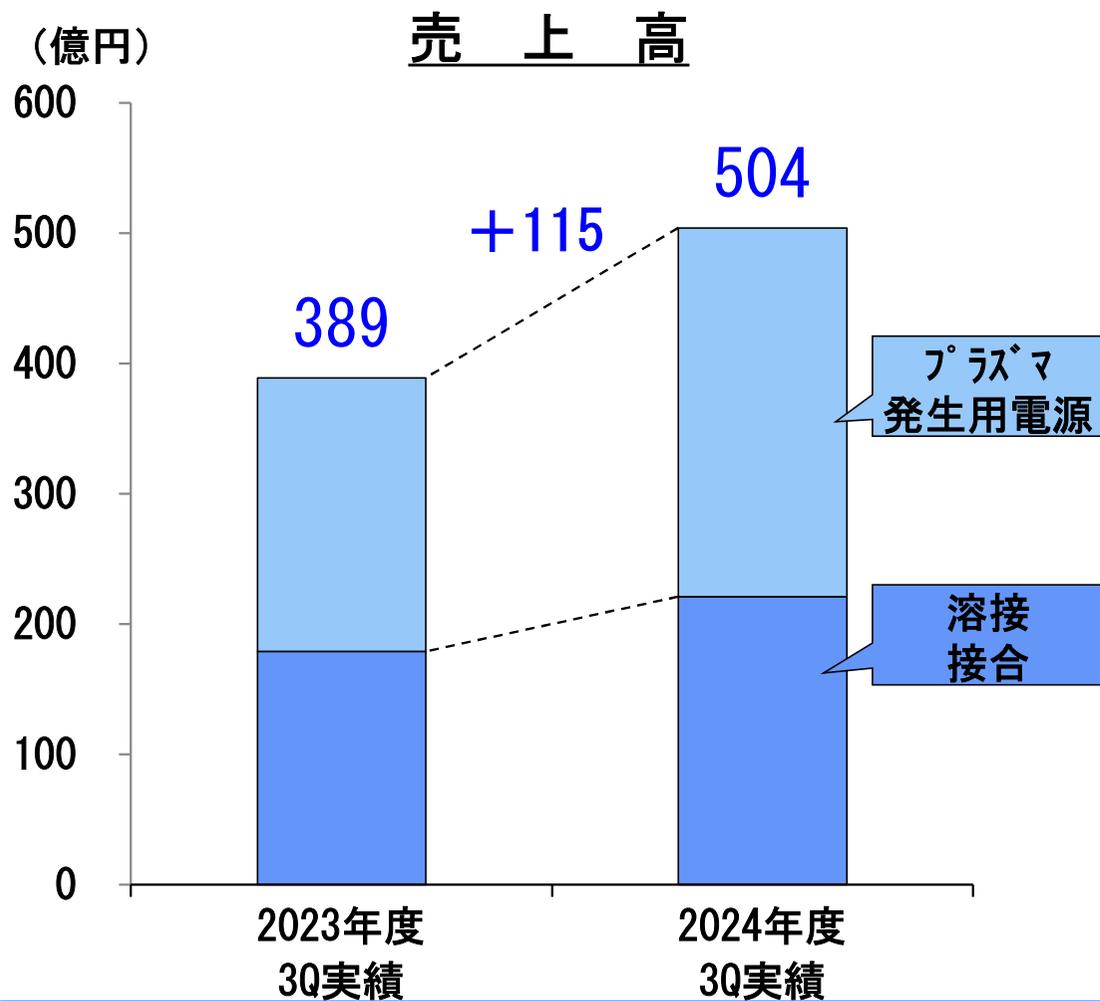


# 「ファクトリーオートメーション」地域別受注高

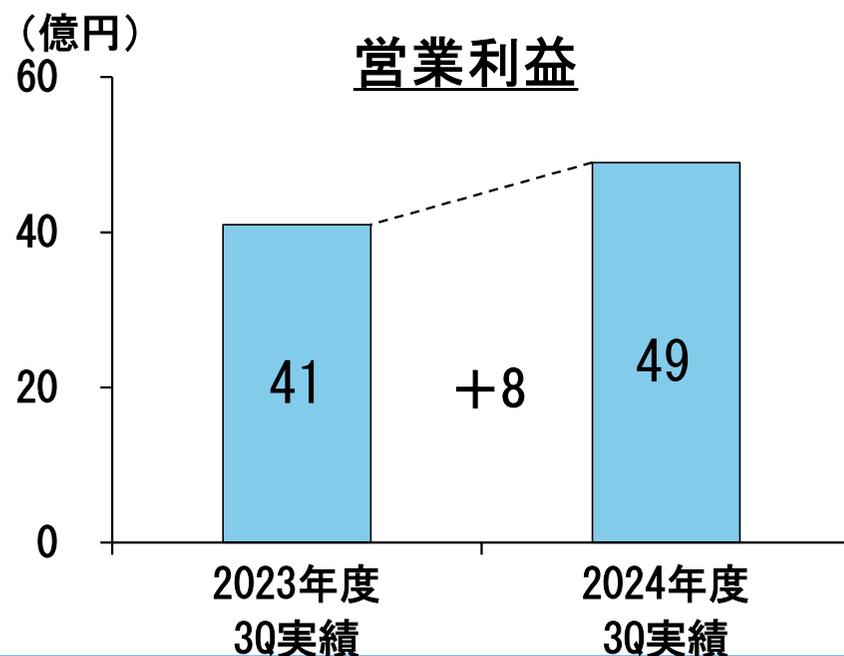
- ・ 3Qは国内及びアジア諸国を中心に生産自動化投資の持ち直しにより増加、4Qも堅調に推移する見込み



# 「マテリアルプロセッシング」セグメント 売上高・営業利益

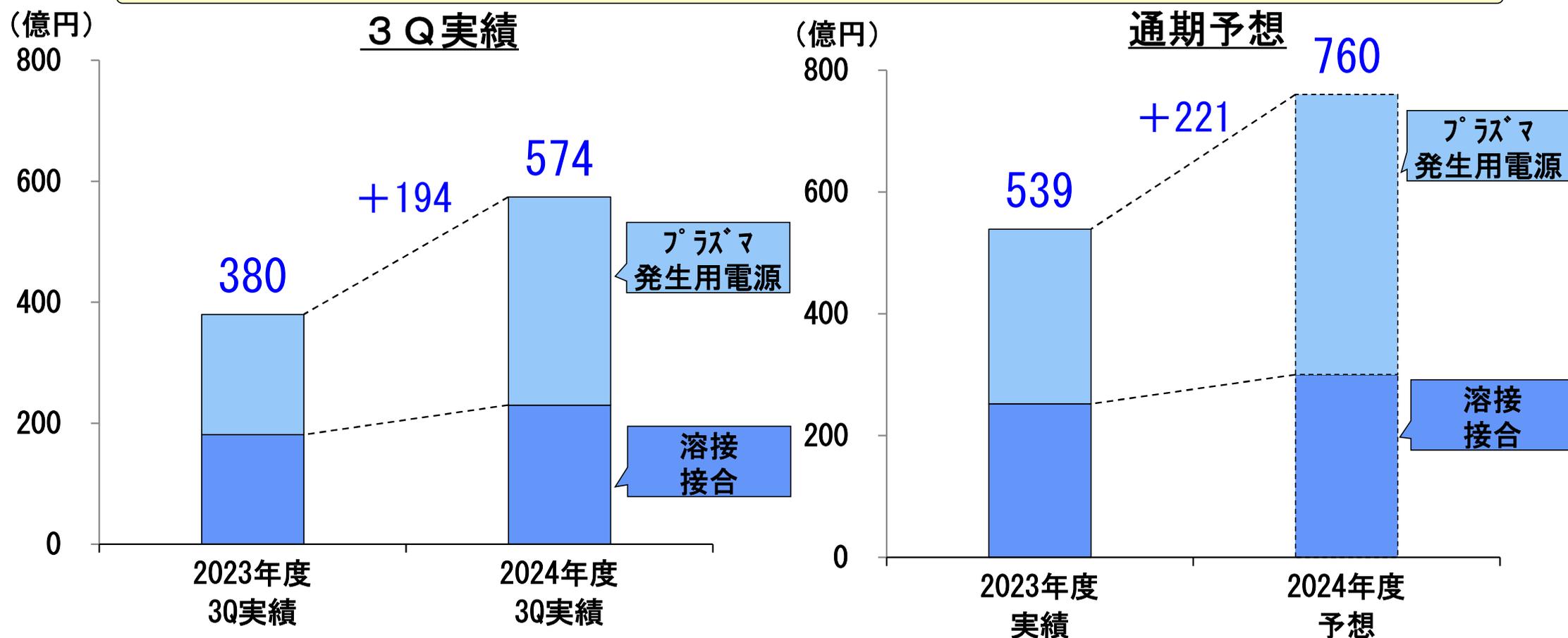


- ・プラズマ発生用電源は生成AI用途の先端半導体関連投資等が堅調に推移
- ・溶接・接合はローヒ社の連結子会社化により増加
- ・先行費用(のれんや減価償却費等)はあるが売上高増加により増益



# 「マテリアルプロセッシング」セグメント 受注高

- ・ プラズマ発生用電源は生成AI用途の先端半導体関連投資等が堅調に推移
- ・ 溶接・接合はローヒ社の連結子会社化により増加



# 通期業績予想

(単位：億円)

	2023年度		2024年度		前年度比	
	実績 ①		予想 ②		②-①	増減率 ②/①
売上高	1,885		2,050		+165	+8.7%
1 エネルギー・マネジメント	976		1,060		+84	+8.6%
2 ファクトリーオートメーション	348		310		-38	-11.0%
3 マテリアルプロセスング	559		680		+121	+21.6%
営業利益	8.0% 151		7.8% 160		+9	+5.6%
経常利益	8.5% 160		8.2% 168		+8	+4.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8.7% 164		5.9% 120		-44	-27.2%

## 2026年度中期計画

### 目指す姿

社会課題の解決に積極的に貢献する企業

### 基本方針

社会課題解決に資する開発の領域拡大

脱炭素社会の実現

労働力不足の解消

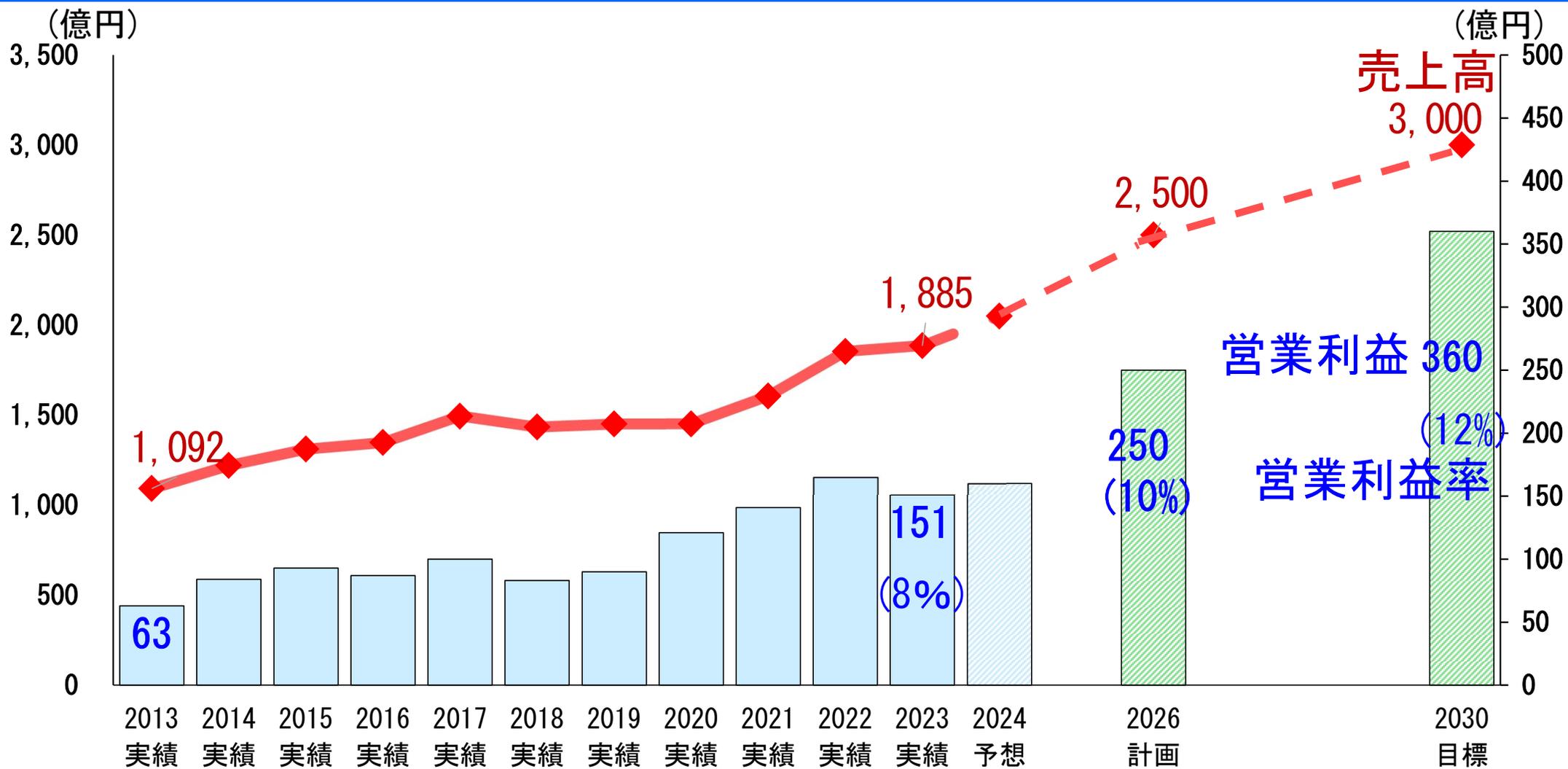
デジタル化の推進

# 社会課題解決に資する開発の領域拡大テーマ

(単位:億円)

社会課題	主な開発テーマ	売上高目標			2030 年度
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	
脱炭素社会の実現	次世代配電関連機器(直流配電等)	150	190	300	550
	再エネ自家消費蓄電池システム				
	系統用蓄電池システム				
	充電インフラ機器・システム				
	大容量需要家向け受電システム				
EV軽量化対応接合機器					
労働力不足の解消	多品種・少量生産に適したロボットシステム	60	90	150	250
	協働ロボットの品揃え強化				
	脱技能化接合機器				
デジタル化の推進	半導体製造装置向け省エネ電源	90	120	250	450
	〃 省スペースロボット				
	チャンバクリーニング向けプラズマ源				
合 計		300	400	700	1,250

# 中期計画業績目標

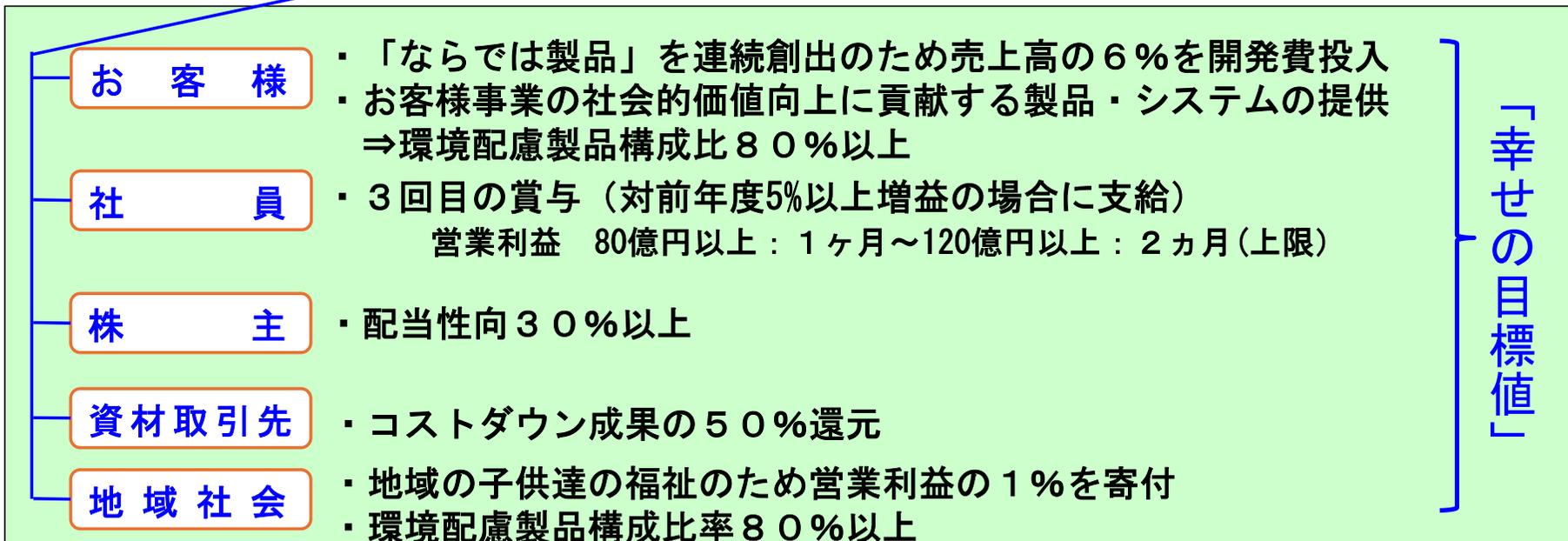


# ステークホルダーへのリターン ～「幸せの目標値」に沿ったバランスの取れた利益還元～

	2023年度実績	2026年度計画	2030年度目標
売上高	1,885億円	2,500億円以上	3,000億円以上
営業利益率	8.0% (151億円)	10%以上 (250億円以上)	12%以上 (360億円以上)
ROE	13.3%	12%以上	12%以上

## ダイヘングループの目的

“みんなの幸せ (1985年/第5代社長 小林啓次郎) 同時達成”



# 1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

# 脱炭素社会の実現

## 再生可能エネルギー対応EMS

### 【市場環境】

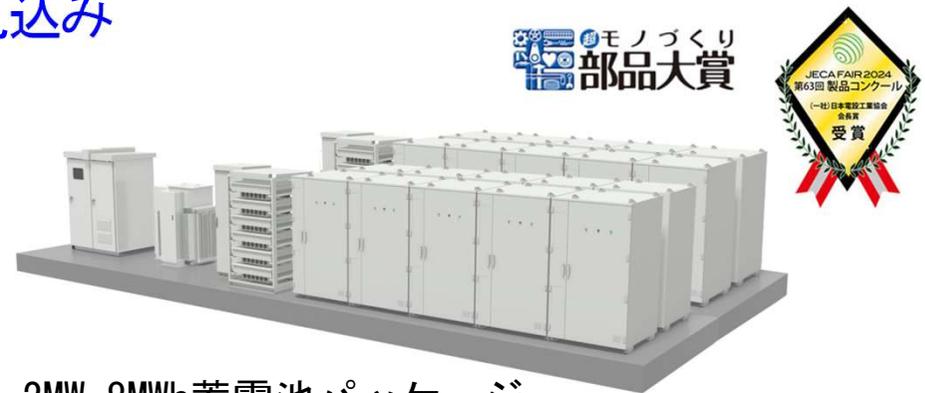
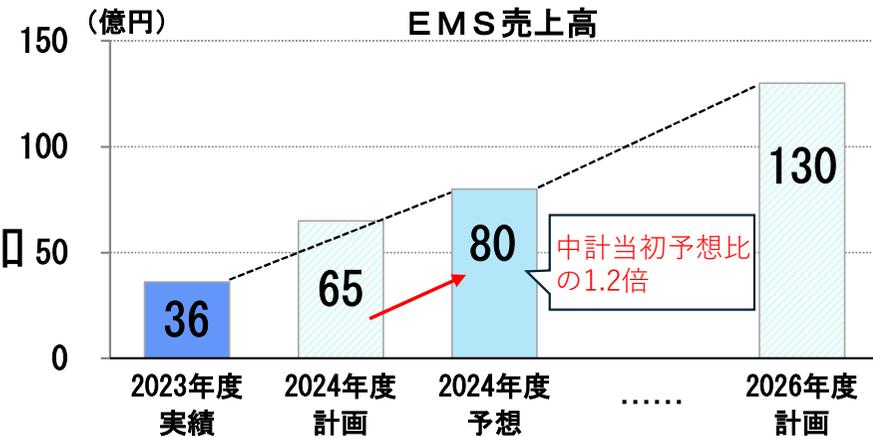
- ・ 2024年4月に本格開設となった需給調整市場などで、早期に運用可能な系統用蓄電池システムの需要が増加
- ・ 大規模太陽光発電所向け大型蓄電池市場においても、フィードインプレミアム(FIP)活用のニーズが高まっている

⇒2024年度 EMS 受注高 前年度比2倍超の見込み

### 【当社の取り組み】

- ・ 新規開発のユニット型パワコン搭載蓄電池パッケージを武器に蓄電池システム案件受注を拡大

2024年度市場規模約650億円※



2MW-8MWh蓄電池パッケージ

(特長) 大容量蓄電池システムの設置面積を約40%削減  
⇒ 事業収益最大50%アップ可

※「日本の太陽光発電導入量予測（2023-2035年）」

# 1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

# 脱炭素社会の実現

## EV充電インフラ機器・システム

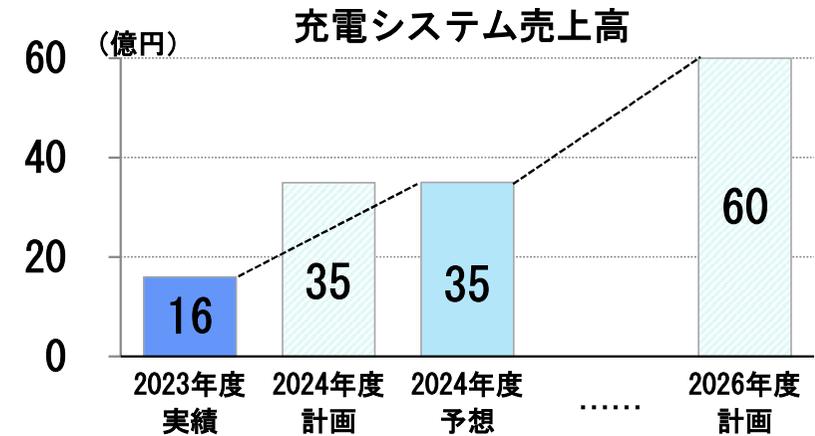
### 【市場環境】

- ・プラグイン充電市場はパブリック向け(高速道路・商業施設等)の補助金が優先的に採択され大容量化が進展
- ・ワイヤレス充電市場では業界団体の設立や環境省の社会実装事業等の取り組みが進んでいる

### 【当社の取り組み】

#### プラグイン充電器

- ・国内初の180kWパワーブースト機能搭載  
「急速充電器D-Rusher (450V仕様)」を市場投入  
⇒充電インフラ事業者などから注文獲得
- ・EVバスや商用車などの高電圧化対応として  
750V仕様を追加 (CHAdeMO認証取得済み)



#### ワイヤレス充電システム

- ・「EVワイヤレス給電協議会」設立/運営開始 (2024年6月～)  
 関西電力(株)、(株)ダイヘン、シナネン(株)、(株)三菱総合研究所、WiTricity Corporation
- ・環境省の社会実装促進事業を受託 (2024年9月)  
⇒電気自動車へのワイヤレス給電の社会インフラ化を推進

- ・「2025年大阪・関西万博」走行中ワイヤレス給電  
⇒GI※基金事業の取り組みとして会場にアクセスするEVバスの充電に使用される (関西電力・大林組・大阪メトロ・NEXCO東日本と協業)

**NEW** 「NEDO省エネルギー技術開発賞」「ベストコラボレーション賞」受賞

※グリーンイノベーション基金事業 (NEDO)

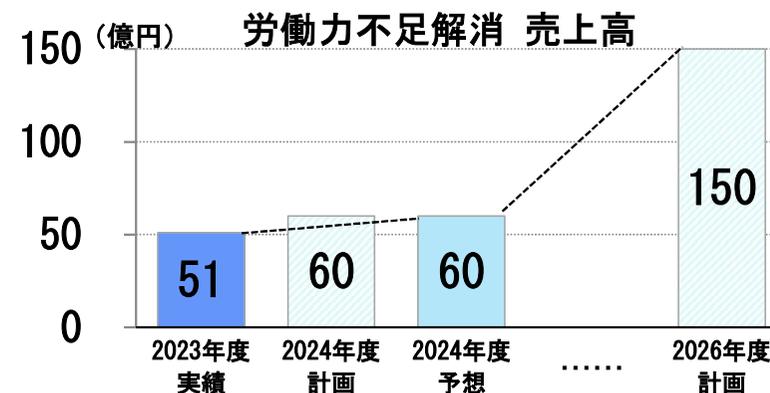


# 1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

## 労働力不足の解消

### 協働ロボットラインアップ拡充

- ・ 高品質溶接を可能とする高い軌跡精度
- ・ ダイレクトティーチとタブレットによる教示レスシステムを備え、ユーザが最適な教示方法を選択可能
- ・ 対象ワークに適した台車パッケージを品揃え



**NEW** 動作範囲拡大や手首軸の動作速度を業界最速レベルとした新製品を投入予定 (2025/5)

#### タブレットティーチ



① 撮る



カメラで撮影

② 選ぶ



溶接線を画面タッチ

③ 送る



生成プログラムを転送

PHOTO TOUCH TEACH

タブレットによる撮影だけで教示プログラムを自動生成

#### 台車パッケージ



ロボットなしでも教示可能  
(教示後にロボットを搬送、次々と溶接可能)  
⇒造船など大型構造物の溶接作業に最適

### 自律走行搬送ロボット (AMR) の刷新

- ・ 400kg可搬タイプの走行速度を従来比40%、可搬質量を25%向上させ、業界最小レベルのコンパクトサイズの新モデルを市場投入予定 (2025/4)



自律搬送台車「AiTran」

# 1 社会課題解決に資する開発の領域拡大

## デジタル化の推進

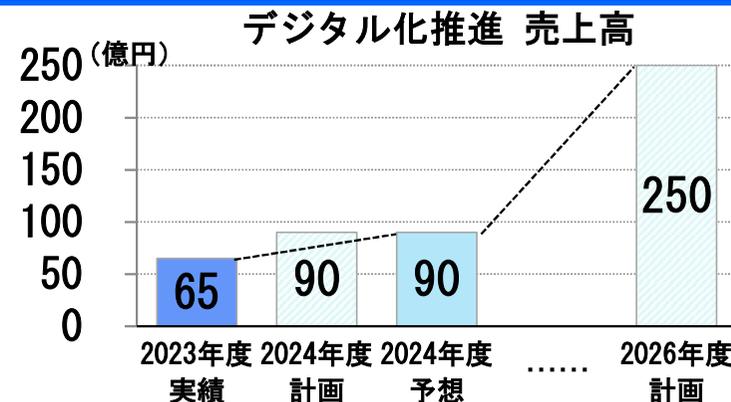
### 【事業環境】

生成AI普及に伴い、HBM用途のDRAMや先端ロジックなどの先端半導体デバイス向けの需要が拡大傾向であり、新規装置の増加が見込まれる。

### 【当社の取り組み】

#### 高周波電源システム

- ・ エッチング工程において深堀り・微細化を実現する当社独自の高性能電源システム技術を最先端メモリ・ロジック向けに展開
- ・ 先端パッケージ向けに拡大が見込まれるボンディング工程へも当社製品納入。



#### 先端パッケージ向け搬送ロボットの拡販

- ・ 半導体ウエハ搬送用ロボットに加え、先端パッケージにおける各工程での搬送用途向け製品ラインアップ拡充

NEW

2024年12月「SEMICON Japan 2024」に出展し、国内外のエンドユーザから高い評価を受け、大手装置メーカーからの新規引合を獲得

(製品の特長)

- ・ たわみ、そりがある様々な基板を搬送
- ・ 非接触での基板の位置ズレ補正による高精度搬送
- ・ 2種類の昇降軸ストロークによる高所搬送



SPR-AD008  
シリーズ

## 2 代理店販売の革新と新領域の販売拡大

### ■ 二本社制導入（東京本社新設）

- ・ 当社最新製品を体感可能な常設展示場を設置。
- ・ 首都圏での大手ユーザ本部への営業活動強化（営業人員1.5倍）により新規顧客・新領域開拓を加速。
- ・ 業界団体・関係省庁等への働きかけ強化による規格・標準作りの推進、並びに広報・採用・IR機能の強化を図る。



常設展示場



### ■ 代理店自律販売を向上する戦略機の投入

- ・ 350A溶接機としてラインアップする5機種を1機種に統合したハイエンド溶接機「Welbee The Short Arc」をリーズナブルな価格で市場投入。  
⇒代理店の販売活動を活性化。

**NEW** ⇒ 第67回（2024年）十大新製品賞「本賞」を受賞



## 将来予想に関する注意事項

- 本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。  
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。
  - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料価格の相場変動
  - 競争企業の製品・サービス、価格政策、M & Aなどの事業展開
  - 弊社の提携等に関する提携パートナーの戦略変化